ダイバーシティ交流会 報告

木 原 伸 一*

最近、ダイバーシティをどう考え、どう対応するのかを銘打った企画が多くなってきている。本学会の対象とする産業分野は必ずしも広いとは言えないが、長い目でみた場合、国際比較を通して社会環境が大きく変化していくなかで、当該産業分野にかかわらず、女性をはじめ若手からシニア、外国人など様々な人材を確保し、“協同してより良き社会”に向かって、一人一人が活躍できる場や雰囲気を醸成することは誰しもが求めるところであろう。当学会でもそれに関係したことで何かすべきことがあるかどうか、理事会にて議論になり、プラスチック成形加工業界における‘ヒト’の多様性に関係したことで潜在的な課題があるかどうかを検討することとなった。そこで、会員の皆様とダイバーシティに関係する課題を一緒に考え、情報共有することのできる風土をつくる交流イベントを企画し、ダイバーシティに関心のある方々と密に交流することでのような課題があるかを知る場とした。今回の交流会は特別講演前の1時間をつかって年次大会初日 2015年6月3日(水) 16時~17時開催したが、年次大会実行委員の方にはプログラム作成途中からの開催枠取りとなったため、大変にご尽力頂いた。

開催主旨の理解は参加者それぞれ微妙に違うことを前提に、キックオフとして、ダイキン工業(株) 人事本部 池田久美子氏に、長年取り組まれてきた「ダイキン工業における女性活躍推進の取り組み」についてご講演いただき、それを基礎として皆様と議論頂くことにした。昨今女性の社会進出から活躍に焦点がうつり、話題になっている内容である。池田氏より女性が活躍する場をつくる障壁が、企業文化（これはある程度トップダウンで対応できる）だけでなく、長年培われた女性に対する文化に関係する意識にあるとのご指摘があり、女性が極端に少ない部門・職場でその傾向は顕著であるとのことであった。また、女性活用の取り組みは2000年ごろから議論になった比較的新しい課題であり、外国人登用は更に最近の課題とのことである。これらは本ダイバーシティ交流会で想定しなければならない課題であろうし、技術を主とする当該分野の方にも共通する課題と思われた。

今回の交流会では、女性19名、男性13名（講師や世話人を除く）の参加があり、学生からリタイアされた方、外国人学生まで幅広いものであった。今回は、短時間の交流会であったため、女性からの積極的な意見を聞き出せないままタイムオーバーとなってしまった。世話人として、参加者の半数ぐらいの名前を覚えてもらえる位の交流が必要であったと反省した。少人数でグループディスカッション風に行った方が、それぞれの思うところを発言する時間がとれてよかったのかもしれない。今回、多様性に求められる双方性を維持するために、ディスカッションのルールを明確にしておく必要があったことは反省点であるが、継続して開催する意義は十分感じられた。

一方で、今回の交流会で重要なものとして最後にアンケートを取らせて頂いた。回収率は100%ではないが、有

図1 ダイバーシティ交流会の様子（右下写真はご講演いただいた池田様）

回答の80%の人がダイバーシティを意識したことがあり、今回の参加の理由として、他企業の取り組みの情報収集や視野を広げる交流の期待をあげた方が多く、女性のワークバランスやキャリアパスに関する興味があったように見受けられた。一方で、外国人との交流、技術伝承、若手とアクティブシニアとの交流など、各自が日頃意識しているであろう課題について、いろいろな取り組み事例を知る機会にしてほしいとの意見もあった。

自由意見には、「他社の取り組みの経緯が分かってとても参考になった」、「もっと女性が話せる場をつくってほしい」、「学会期間中だったので参加しやすかった」、「興味の無い人も巻き込まないといけない」、「そもそも理系大学にすすむ女性がすくない」、「理系女性の採用が少ない」、「成形加工学会に入っている女性は将来をどう考えているのか知りたい」、「理系の魅力を年少世代に伝える」、「それぞれが具体的に何を思って参加したかを知りたかった」、「男女が参加していてよかった」、「このようなことを考える機会を与えてもらって良かった」、「この学会の役員の女性の割合を教えてほしい」、「ずっと続けているいろいろな問題点を探し出すのはよいのでは」、「本学会からよい技術を広めるようなウェルカムな話題で議論できたらよい」、「目的はもっと明確な方がよい」、などあった。建設的な内容で意見交換がしっかりできる場にするのを強く期待する意見であった。他方で、年1回ぐらいこのような交流を深めるのも悪くはない、との印象のようである。

本交流会の世話人としては、開催について肯定的な意見が多いため、数年は続け、ダイバーシティ交流の輪を広げることで、マイノリティー的な集まりを縦横にネットワーク化することで、長きにわたり活気が満ちあふれた学会活動に繋げていきたいと思っている。

来年も年次大会期間中に茶菓子を用意して開催する予定であるので、今回参加された方も本報告を読んで次回参加してみようと思う方も是非ともお集まり下さい。

* Kihara, Shin-ichi
広島大学 大学院 工学研究院 物質化学工学部門
東広島市鏡山1-4-1 (〒739-8527)

世話人：杉本昌隆（山形大学）、岡田きよみ（パークインエルマー）、
長井聡（三菱エンジニアリングプラスチックス）、横山敦士（京都工芸繊維大学）、
狩野武志（三井化学）、木原伸一（広島大学）(文責)